

川崎の男女共同社会を **すすめる会通信** No.168

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com ☎& FAX 044-944-7872 ●発行日 2015年 7月 20日
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤 3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

メールアドレスが変わりました！新▶ hymico@me.com

会場いっぱい60人参加！ 映画+トーク会 **何を怖れる** フェミニズムを 生きた女たち



男女平等週間のすくらむ21のイベントとして、6月27日にすすめる会・かながわ女性会議共催(すくらむ21後援)で行った「何を怖れる」映画会には会場いっぱいの60の方が参加、熱心に映画に見入りました。

市政だよりに掲載され、図書館や市民館にチラシが置かれた翌日から申し込みの電話やFaxが毎日のように鳴りだしました。

県や横浜市内の会館、大学などにチラシを置くと横浜・藤沢・海老名・世田谷・板橋・府中・清瀬などから「一般上映で見逃したので」という申込みが、映画会当日まで続きました。椅子を増やして定員増にしても追いつかず、お断りした方も10名近く…これまでにない経験でした。井上先生は安保法政を巡る状況を危惧、熱意のお話でした。(F)



こんな感想が

違う時代に生きている私(32才)にも心の深いところに届いて激しく共感しました。知っていることも知らないこともありましたが、*本当に思っていることをはっきりと伝えてくださっていること。*とんでもないことに真正面からおかしいと言い、行動を起こしたこと。*前向きさ、自己否定→自己肯定-に心から感動しました。

ものすごく励まされた思いです。こんなに一杯生きていた女性たちの思いをなんとか引き継ぎたいという思いと、身にあまる(できるかな?)思いと同じに感じました。

世代間の交流を! 違う価値観の方も多くいると思いますが、私のように励まされる人、エンパワーされる人も多いと思います。

2015年度男女共同参画センター協働事業

第1回学習会

9/12
(土)

13:30~16:00
すくらむ21
(4F多目的室)

いやです！ はじめっから非正規・一生派遣

これではたまらない！

「生涯派遣・正社員ゼロ」法がつくる、不安定低賃金雇用・若者の貧困社会！

川崎の若き弁護士、28才の山口たかひろさんと

一緒に考えましょう、若者の未来！私たちの生活。

助言者：山口毅大さんたかひろ(弁護士・川崎合同法律事務所・県立多摩高校卒)



第 57 回川崎母親大会

第 5 分科会

「はじめから非正規はイヤ、一生派遣はダメ」

6 月 21 日(日)10:00~12:00 中原市民館

助言者 山口毅大 弁護士 (川崎合同法律事務所)

参加人数 18 名

1 レジュメ「生涯派遣・正社員ゼロ」から

- 戦後・・・労働者を不当に支配し、中間搾取などが横行したため、職業安定法第 44 条で禁止
- 1985 年労働者派遣法成立→不安定雇用、低賃金雇用が増加し、正社員と比較して、女性派遣労働者が低賃金雇用の下で、貧困化。
- 今回の労働者派遣法「改正」案→常用代替防止原則と臨時的、一時的原則を廃棄し、派遣期間制限を廃止し、「生涯派遣・正社員ゼロ」社会をもたらす悪法である

2 会場からの発言…参加者のほぼ全員が発言されました。(一部の紹介)

- 家族や本人が現在非常に厳しい労働環境にある。将来の明るい展望がまったくみえない。
- 非正規の仕事では待遇面などから、本人のみの生計がようやく成り立つくらいで、結婚などは考えられない
- 非正規から正社員になったら責任は重く、残業手当なしで体調を崩し、転職したが、待遇の点で著しく生活が苦しくなった。
- 若い世代は労働法の言葉自体を知らない人が多いと思う。

3 助言者のまとめ

- 法律用語など文章を読んでも難しいと思いがちであるので、特に若い人たちに対してわかりやすく、制度や個人の権利を知ってもらう必要がある。
- 今回の改正案は長い眼で見て、企業にとっても、国にとっても将来的によくはない方向に進むのは必至である。
- 労働の中心となっていく若い世代が、自分の問題として取り組んでもらうよう私たちが、働きかけを続けていくことが、大切である。

★ ★ ♪♪♪ ♪♪♪ ★ ★

ドキュメンタリー映画

「何を怖れる フェミニズムを生きた女たち」

ゲストスピーカー 井上輝子さんのお話し

◇この映画監督の松井久子さんは、ドキュメンタリーは初めてであり、この作品自体が一つの挑戦となっています。最後におもな出演者たちがお花見をする場面などにこだわりがあらわれているように思いました。

◇チラシの「個人的なことは政治的である」という文言は、この年代は個人的な体験が社会の問題や政治の問題に繋がっているという意味を含んでいます。出演者の方々が、どのように問題に気づき、どう解決していったかが、映画のなかで語られています。

◇例えば、就職における男女の待遇格差、家庭内の性別役割分業など、様々な困難に直面し、そこからまた新たに生まれた課題に取り組みながら、今日に至る状況が投影されています。

◇書籍「何を怖れる」の年表を参考に、女性たちの歴史を見てみますと、1971 年のリブ合宿、1975 年「国際婦人年をきっかけとして行動を動かす会」などの女性たちの行動が活発化しているのがわかります。自分自身も、大学院進学、就職先の非常勤講師の待遇などから、「女性」であることの男性に対する不平等感を強く感じるが多かったです。

◇女性差別撤廃条約の採択、男女雇用均等法の成立、国連世界女性会議の開催など少しずつ女性を取り巻く状況はよくなっている面もありますが、全体としてはたいして変わっていないと思います。

◇問題はまだまだに多くあり、深刻化している面も多い状況です。今それぞれの方たちが個人的な問題として抱え込まず、解決にむけて粘り強く取り組んでいくことが大事だと思います。

「何を怖れる フェミニズムを生きた女たち」 映画＋トーク会

感想・ご意見を…

★深く、静かな感動を残してくれた映画でした。ありがとうございました。

★とても素晴らしい映画、上映実現へのご尽力ありがとうございました。「川崎の女性のあゆみ」も感心して拝読しました。

★自分の歴史とかさなり、たいへん面白かった。いろいろ整理されよかった。

★映画はとても良かった。友人の紹介で来て本当に良かった。友人に感謝しています。

★上野千鶴子さんが好きで、この映画に行き当たりました。あいにく東京・神奈川での上映が見当たらず、大阪まで出向こうかと思った時に、ここでの開催を知り、安価で見ることができ大変うれしく思っています。

★大学まで、何の男女の差も感じず、社会に出たところ幾度と壁にぶち当たり、共に働こうと結婚した後、度重なる夫の転勤、出産後の保育園入所の待機など、海外勤務帯同…と職場を離れ、ようやく帰国して8年ぶりに仕事に復帰しましたが、家事・育児・仕事と張り切り過ぎたのか、パニックに陥り、また職場を離れました。

先を歩む方々の頑張りを見ながら、何かをして歩んでいきたい自分と、そんなにはできないという気持ちと揺れ動く今です。今日はありがとうございました。

★少し上の年代の方々が、これほど真剣にジェンダーについて考え、行動されてきたことを良く知らなかった。「フェミニズム」をどうとらえるか、まだ統一されたものがないのではないか。これからもっと広げ深めていく幅があると思う。「自分に出会えていない人は、他人にも出会えない」と言う

言葉が残る。若い世代にもっと知ってもらえたら。子どもを産む女性でも「人はそれぞれだ」と言う考えを子どもに植え付けていく努力をしたい。

★映画の内容、個人の女性の歴史、途中、上野千鶴子先生などの意見も入り、よくまとまっていたと思います。

★当事者たちの率直な気持ちや、フェミニズムの歴史的映像が集約されたドキュメンタリーは非常にインパクトがあった。

出演者の井上先生のお話も聞け、特にご自身の体験から感じたジェンダー問題が興味深かったです。かながわ女性会議「ジェンダーと男女共同参画」もおもしろく役立ちそうな資料なので、後でゆっくり拝読します。ありがとうございました。

★昨年、和光大学で井上先生の講演を聞いてから、この映画を見たいと思っていました。諸先輩方々の苦勞と気持ちが感じられました。今の時代、表面的には女性の立場が上がったと言われていますが、政治的にも本当に本音と建前をこの国は使い分けします。もっと本音が表に出る社会になり、女性が本当にいきいき生きて行ける時代になると良いと思います。

★目で見る歴史の一コマは、又いろいろ考えさせられました。

★自分の青春時代がプレイバックされたようでなつかしかった。懐かしい人々が良い年をとられて、いい顔でエイジングされているなと思いました。今年30になった娘に、自分の生きてきた時代より少しでも生きやすい世界にしたいと思って、色々やってきましたが、昨今の暗い世相に死ぬまでやることがいっぱいあるのだなと思いました。



アンケートより
2015.6/27

★フェミニズムの歴史が分かって面白かった。井上さんのお話の最後にもあったが、今はなんとなく不便を感じていない女性が多いと思う。ただ、本質のところは問題が残っていると感じているので、きちんとNOを言うことが大切なのだ改めて考えさせられた。

★映画では、フェミニズムの歴史を刻んでこられた方々の個人的な思いもおりこまれていて、遠い存在のように感じていた方々が、其々の課題を抱える等身大の存在だったと感じました。一方で、そうした課題を放っておかず、何らかの行動を起こしてくれたことに、あらためて気づき、行動力と勇気に尊敬の念を持ちました。

井上先生のお話では、フェミニズムの流れを静かに力強く、前進させてこられた先生のような存在がおられてこそ、途切れることなく大きい流れになってきたのだと気づきました。多様な人の多様な方法が合わさって、1つの方向性が見えてきているのだと感謝したい気持ちです。私も日々の暮らしの中で、女性であることを大事にしながら生きていきたいと思えます。

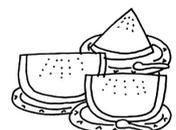
今後の希望などは…

★真の男女共同社会とは何か、高齢化社会を迎えて、超高齢・障害者など弱者はどうあるべきか、改めて考えさせられます。

★男性や若い世代にもこの映画を見て頂きたいです。そんな方々が集まって、気軽に話し合える場づくりにも期待します。

★女性運動の流れが分る講座を設けて、若い女性にPRし後に続く人を育てて貰いたいです。

★また、part II
を見たいです！



女性ニュース

・6.20 女の平和レッドアクション

6月20日、安全保障関連法案に反対する女性の集会在国会議事堂周辺で開かれ、参加した約1万5000人（主催者発表）が怒りを表す赤い服やスカーフをまとい、『人間の鎖』を作って国会を取り囲んだ。

集会では学習院大法科大学院の青井美穂教授が「安倍政権は、法案が違憲だという各方面からの声を無視している。立憲主義が無に帰そうとしている」と訴えた。今年1月にも女性で国会を包囲した。

・20～30代—自分の時間優先傾向

政府は6月22日、2015年版「少子化社会対策白書」を決定した。20～30代に結婚や家族についての意識調査を実施、恋人がいない未婚者の集計で60.8%が「恋人がほしい」と思っているが「出会いの場が無い」と感じている人が55.5%。「恋人が欲しいとは思はない」と言う人は37.6%だった。調査は昨年12月～今年1月に全国の男女に実施し、未婚・既婚を合わせて2643人から有効回答を得た。白書は、少子化対策の取り組みとして子育て支援に加え、結婚しやすい環境づくりの必要性も指摘した。

・大磯町議選—女性半数に

任期満了に伴い6月28日に行われた大磯町議選（定数14）は、現職11人が再選され、新人2人、元職1人が当選し、女性は半数の7人になった。（昨年7月の全国町村議会集計で唯一、過半数を女性が占めていた）投票率は48.28%で過去最低だった前回51.84%を下回った。当日有権者は2万7209人（男1万3180人、女1万4029人）

・マタハラ6人に一人

7月8日、保険ショップ「保険クリニック」を運営する「アイリックコーポレーション」（東京）が6月に調査した結果を発表した。実施はインターネットで20～40歳の女性500人が回答した。妊娠時の勤務形態は正社員が52%、パート・アルバイト33%、派遣社員8%、契約社員7%。このうち80人がマタハラを経験したと回答。

その内容（複数回答）は「解雇や契約打ち切

りの話をされた」が41%で最も多く、ついで、「心無い言葉をいわれた」が30%、「立ち仕事や重労働をさせられた」13%だった。他に担当業務の変更や降格、移動をさせられたと答えた人もいた。妊娠中の職場環境では、重労働の免除などの配慮が何もなかった43%、周りで煙草をすわれたり、8時間以上の勤務を続けた人は半数を超えた。

・川崎市議会—女性議連発足

7月8日、現職の女性市議全11人（定数60のうち自民・公明各1人、民主みらいと無所属各2人、共産5人）が名を連ねた**女性議員連盟（愛称・瑠璃の会）**を設立した。

同議員連盟は、性別による差別的な取り扱いを受けずに平等に政治的、経済的、社会的、文化的利益を享受できる「すべての女性が輝く社会」の形成に寄与することを目的に設立。今後、勉強会や視察などを通じて政策提言を行うとしている。会長は自民党の吉沢章子氏。

・マララさん—女学校開校

7月12日、2014年のノーベル平和賞受賞者のマララさんは、その賞金で女学校を開校した。この日、18歳の誕生日を難民キャンプの教室で少女たちと祝い、少女に教育を受ける権利をと声明を発表した。レバノン東部のシリア難民キャンプに身を寄せる14～18歳の200人の少女たちのために教育や技能訓練の機会を提供します。

これからの活動

7月31日 幹事会 13:00～ すくらむ21
9月12日(土)『いやですはじめっから非正規一生派遣』講師山口毅大弁護士 13:30～すくらむ21

活動日誌

6月18日 通信印刷・発送
6月21日(日) 川崎母親大会 中原市民館
分科会担当（非正規労働について）
6月27日(土) ドキュメンタリー映画
『何を恐れる』上映とトーク すくらむ21
6月27日 幹事会 10:00～すくらむ21
7月15日(水)共産党議員団との懇談(予算要望)
7月15日 幹事会